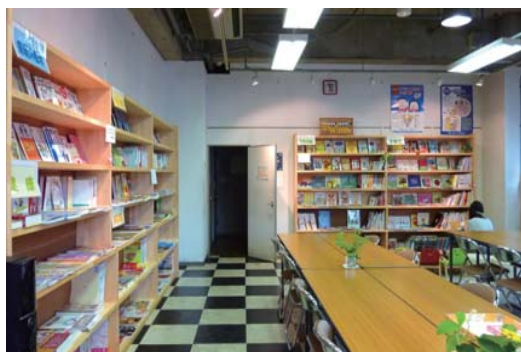
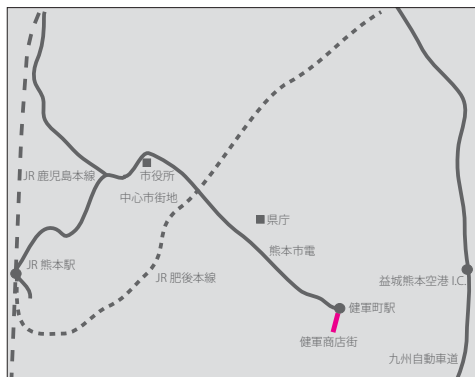


健軍商店街 「よって館ね」

医商連携という可能性

熊本市健軍町



よって館ね内観

よって館ね

健軍商店街理事会のメンバーが、商店街を訪れる買い物客に対して、栄養関連本の貸し出しや日ごろの健康相談を行うことのできるスペース「よって館ね」を設置した(2009年11月)。医療の場と商業の場をまちなかで結び付ける「医商連携型のまちづくり委員会」を商店街振興組合と地域の医師会と共に立ち上げ、その拠点事業として位置付けている。

全国でシャッター商店街が問題になるなか、いつも賑わいの絶えない健軍商店街の取り組みを紹介する。

熊本市健軍町

熊本市の東部、中心部より少しだけ高台に位置する健軍町。戦中は飛行場や三菱の工場があった。熊本大水害(1953年)の後、多くの住民がこの土地に移住してきた。まちの原型はこの頃に遡る。

商店街を挟んで北に位置する健軍団地は高齢化が進んでいる。その一方で、この地域にはファミリー層の居住も多い。直通する市電で繁華街まで30分、高速道路のインターチェンジも開通するなど(1999年)交通の便の良さを反映している。学校・体育館等の施設が充実していることも理由のひとつであろう。また、東海道五十三次を模した風光明媚な水前寺公園が近くにあり、安らぎと憩いの空間を享受できる。良好な環境と様々な年齢層の人々がバランスよく集住していることがこの地域の特徴である。

仕掛け人は組合長

医商連携は商店街の組合長が始めた。いつも新しい取り組みを始めるのは組合長だという。以前も、買い物帰りに重たい荷物を抱える高齢者の送迎サービスを試験的に行ったことのある人物。今ではある程度定着し、肥後タクシーが継続している。



よって館ね外観

日頃の健康をサポート

具体的な取り組みとして、まず週一回の健康相談が挙げられる。健康相談を受け持つのは近くの病院の看護師。病院では聞きづらい悩みの相談の場として重宝している方が多いという。買い物帰りに寄れる気軽さと誰でも入れる敷居の低さが支持される理由のようだ。

また、血圧測定や万歩計の無料貸し出しなど、日頃の健康チェックに寄ることもできれば、医療関連本の貸し出しや健康グッズの販売、介護関係の相談会が開かれるなど、サポートは幅広い。

このようなサービスは組合長の熱意と永年に亘る努力、それを支える商店街、住民との信頼関係があってこそ成立するものである。

まちなか図書室

「よって館ね」には図書スペースも併設される。子供の絵本から健康関連本まで幅広く揃っている。購入したものもあるが、地元の人々に寄付してもらったものも多いそうだ。健軍町から県立図書館までは車で20分かかるため、地元の子供たちにとっては嬉しいスペースとなっている。週末になると20人弱が本を借りに来る。商店街に位置するため、平日でも買い物帰りの母親が図書室に寄って、子供の手をひいて帰る光景がよく見られる。

ボランティアで成り立つ教室

「よって館ね」の運営資金の大半は国からの助成金が占めるといふ。助成があるという事実は、運営上は有利に映るものである。しかし、助成を受けるために「よって館ね」で行う活動では一切利益を生まないことが条件になっている。

2010年夏の時点で英会話やそろばん等様々な教室が開かれているが、全て地元のボランティアが行う。現状では成立しているものの、ボランティアで行う活動にはいつか限界がくると思われる。本当の意味で持続可能な運営へ結びつけるにはどこかで利益を生む仕組みを構築する必要があるだろう。



無料の健康チェックコーナー

一考察一

医商連携はかたちを変えて

話は変わるが、2010年10月に高松市栗林に医食住の揃ったアルファメディカルモールが開業した。ショッピングモールに歯科・小児科・耳鼻科等8つのクリニックが入居しているという。既存のショッピングモールにもクリニックが入居している例は数多く存在する。しかし、これだけ複数の受診科目を揃え、且つ買い物ついでに寄ることのできる「気軽さ」を前面に押ししている例は初めてではないだろうか。

健軍商店街がまちの歴史と共に歩んできた商店街の医商連携であるならば、メディカルモールは駅前コンパクトシティや複合商業施設における医商連携のひとつの解答かも知れない。

毎日が魅力的な空間

健軍商店街において注目すべき点。1つ目は、同じ場所なのに様々な人々が利用することで空間が変わること。子供たちが来たり、高齢者が来たり。子供を買い物帰りに迎えに来るお母さんが来たり。休日にはお父さんが子供を連れて図書館に来る。

そして2つ目は、商店街に毎日異なる買い物以外の機能を付加し、それが相乗効果を生んでいることである。買い物ついでに医療、医療ついでに教室、教室ついでにお迎え、お迎えついでに買い物。様々なサービスの間に様々な人と人との連鎖が生まれる。

いつもの商店街が毎日異なる魅力を放つということ。料理に例えると、器だけ用意し、何を盛るかはその人次第。どう盛るかもその人次第といった感覚。決まった器に決まった料理の毎日とどちらがより魅力的だろうか。毎日訪れる商店街だからこそ、そんなスパイスが魅力的な空間を創出する。



健軍町電停。ここから30分で熊本市中心部へ